【会議録】 (No. 1)

事　業　名	令和５年度　第１回市川市文化芸術事業検討懇話会		
日　時	令和6年3月29日(金)14時～15時30分	出席者	【委員】朝吹亮二氏、嶋田直哉氏、湯川説子氏、鈴木康之氏、影山 亮氏 【事務局】森田文化国際部長、吉田文化国際次長、植松文化芸術課長、中能主幹、割田主査、島津主任
場　所	文化会館　第3会議室		
種　別	□交渉　□連絡　□提案　☑その他		

【 内　容 】

１．文学賞「（仮称）永井荷風賞」の創設について

【 議　事 】

１．文学賞「（仮称）永井荷風賞」の創設について（検討案）

（事務局から説明）

＜趣旨＞

市川市制 90 周年を記念し、名誉市民である文豪　永井荷風の名を冠した文学賞を創設する。荷風が創刊に携わり、初代編集長を務めた「三田文學」と連携し、荷風文学を永続的に顕彰するとともに、若手文学者の発掘を図り、文学の振興に寄与する。

＜賞の種類＞

（１）永井荷風賞【本賞】

荷風の幅広い業績にならって、小説、随筆、評論、演劇、詩、翻訳など、ジャンルを限定することなく、対象期間中に発表（刊行）されたなかで、最も優れた文学作品を称える賞を設ける。

（２）永井荷風新人賞

新進気鋭の書き手の発掘と支援に情熱を傾けた荷風の精神にならい、「三田文學新人賞」を引き継ぐ形で、公募型の「永井荷風新人賞」を設ける。小説、評論の未発表作品で、400 字詰原稿用紙 100 枚以内。

＜対象期間＞

（１）永井荷風賞【本賞】

第 1 回は、2024 年 11 月 1 日～2025 年 10 月 31 日までに発表（刊行）された作品（以降毎年これに準ずる）

（２）永井荷風新人賞

応募期間：2024 年 11 月 1 日～2025 年 10 月 31 日まで

＜選考方法＞

（１）永井荷風賞【本賞】

①5 名の選考委員がそれぞれ推薦する作品（1 作）を 11 月までに事務局へ提出（計最大 5 作、ジャンルは審査員それぞれの専門に限定されない）

②推薦作品を選考委員全員が読み込む

③選考委員会で討議して本賞該当作品を決定する。

（２）永井荷風新人賞

①事務局（三田文學編集部）において応募作品を下読みし審査員へ送付する

②応募作品を審査員が読み込む

③選考委員会で討議して当選作、佳作、予選通過者を決定する
＜審査員候補＞
作家、文芸評論家、詩人、演劇評論家など幅広いジャンルから選任する
＜発表＞
【本賞】は3月に市長、三田文學会理事長の連盟で、報道発表に付す。
【本賞】選考過程の議論と新人賞は「三田文學」2026年春季号（4月発行）等にて発表する。なお、新人賞については、当選作の他に、佳作、予選通過者まで発表する。
＜賞金＞
（１）永井荷風賞【本賞】：100万円
（２）永井荷風新人賞：50万円　新人賞佳作：10万円　※現在の三田文學新人賞同様
副賞：市川のブランド梨、江戸つまみかんざしや東京手描き友禅等の市川在住の千葉県指定伝統的工芸品作家による記念品
＜授賞式＞
3月下旬～4月に永井荷風賞【本賞】・新人賞の授賞式を開催する
＜関連イベント＞
授賞式のあと（5月以降）、展示や講演会など、受賞者の関連イベントを市川市内で開催する。
＜主催者＞
市川市・三田文学会、もしくは永井荷風文学賞実行委員会（市川市、三田文学会、賛同企業等）

以上の検討案について、今後市川市が永井荷風の名にふさわしい賞を創設するために、アイデアやご意見をお聞かせいただきたい。

（意見交換）

〇委員
新人賞をそのまま引き継ぐ形はすんなりいくと思うが、本賞のほうはつかみにくい。作家の名前を冠した賞がたくさんあるなかで、三島由紀夫のとがった作品や谷崎潤一郎のヘビーな長編など、賞の狙いがわかるとよいのではないか。どのあたりを狙っているのか、三田文學の方たちがどう考えているかが気になるところ。

〇委員
創設にあたってどういう位置づけにおさめるのか。芥川賞のような全国規模な賞ではなく、その地域からということをイメージしているのか
→現状では地域性ももちろんだが、全国区で考えている。新人賞との区分けもあり、中堅以上で考えている。（事務局）

〇委員
永井荷風の顕彰ならば、荷風の研究や普及活動をしている団体や個人にも賞を設定すれば名前を冠している意味があるのでは。

〇委員
他の文学賞との差別化は大きなポイント。公が行う意味についても考えたほうが良い。エンタメ性が強いものは、若い人が自分の好きなものだけを楽しむもの。公が関わるものは、より「他者を知る」こと、自分が楽しむだけでなく知っていく、ということに目を向けていったらよいのでは。谷崎のような新進気鋭な作家を発掘した荷風の功績になぞらえるようにしたら、公である市川市が賞を創設する意味があるのではないか。

〇委員
選考委員を誰にするかが重要だと考えている。賞の賞金がいくらなのか、選考委員がだれなのか、で賞を判断する。この人が選考する、ということが受賞者の栄誉にもなるし励みにもなる。現役のあぶらののっている人が選考委員になるのもいいと思う。主催者のほうから基準を設定することは難しいので、むしろ選考委員をどうするかをよく考えること。そしたらあとは選考委員におまかせでよいと思う

〇委員
荷風はひょうひょうとしたおじいさんのイメージが強いかもしれないが、老人作家のようなイメージでやらないほうがいいと思う。つまり、選考委員も現役の作家や評論家が良いと思う

〇委員
審査員は、名前だけでこのジャンルの人とわかるような人を幅広く入れることで、荷風が幅広い人物だったことがよくわかって良いのではないか。

〇委員
スキーム作りが大切。広報が大事。中身も大事だが、広報にもぜひ尽力してほしい世界に発信できるものになるといい

（事務局からその他事項について）
本日のご意見を参考に、事務局で引き続き検討していく。